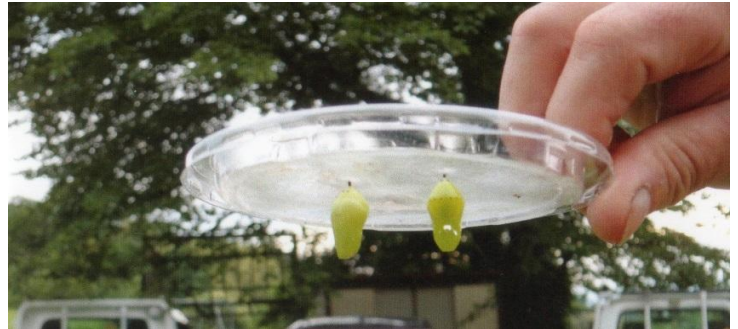




草刈

7月6日(土) 参加者25名

会員が持参したサナギ。
7月9日羽化。



龍神祭りに今年も出

7月27日(土)

当町最大のイベントに1ブースを出展

アサギマダラ、当会の写真を展示。初めてフジバカマの生花や鉢、ドライフラワー、お香も楽しんでもらいました。また、朝取りのブルーベリー、インゲンも販売。売上金約2万円は活動資金に。龍神の杜公園の一番奥であり、お客さんもゆっくりくつろいだのはよかったが、今年も雷雨にたたられ大騒動に...



アサギマルシェ@面替 & アサギマダラ観察会

9月22日(日)

Yさんの一言「フリーマーケットをやりませんか？」が大イベントに

年々飛来する蝶も増え、花畑も増反されるなか、出来るだけ多くの人にこの素晴らしい蝶を見てもらいたい、自分達の活動を知ってもらいたいとの思いから1か月間で”打ち合わせ”、”ポスター・パンフレット作り”、”看板”、”会場作り”、”出店募集”と一直線に。不安だった集客も思った以上で、駐車場・交通係は昼食もとれない騒ぎ。打ち上げの慰労会では、もうみんなグッタリ！





マーキング講習



盛会を祈って乾杯!!

<後日談>

新聞やテレビに取り上げられフジバカマの苗・お米・ジャガイモの問い合わせや希望もあり。資料を送ってくれた先生も。以後数日に渡り訪問者があり、Wさん作の看板を再び設置しました。

新聞に掲載されました！

御代田 面替にアサギマダラ見に来て

北佐久郡御代田町面替の遊休農地で、長距離の渡りをするチョウ「アサギマダラ」が集まる環境づくりをしている「大星・アサギマダラの会」は22日、恒例の観察会と併せて初のフリーマーケット「アサギマルシェ@面替」を面替の大星神社境内で開く。アサギマダラを高齢化が進む面替の「元気のもと」と活動しており、大勢に訪れてもらおうと新しい催しを企画した。

アサギマルシェは午前10時～午後3時。野菜、陶器、日用雑貨などを並べ、先着30人にはフジバカマの切

浅間山を望む御代田町面替に飛来したアサギマダラ

り花をプレゼントする。昼ごろに豚汁を振る舞う。雨の場合は面替公民館で開く。観察会は午後1時半～3時で雨天中止。

面替は40世帯余り。同会は2009年に発足し、アサギマダラが好むフジバカマを大星神社周辺に植えてきた。当初は十数人で会をつくったが、県外にも仲間が広がり、現在の会員は約60人になっている。

今月半ばにアサギマダラが飛来し始め、徐々に増えているといい、会長の茂木重幸さん(63)は「アサギマダラが舞うことで、地域が忘れられないようにしたい」と話している。問い合わせは茂木さん(☎090・4057・8311)へ。

<2013年9月21日 信濃毎日新聞>

渡りをするチョウとして知られるアサギマダラ。北佐久郡御代田町面替の「アサギマダラの会」はこのチョウが集まる里づくりに取り組んでいる。好んで蜜を吸うフジバカマを遊休農地に植えて4年目になる◆連休の22日にフリーマーケットと併せた観察会を開いたところ、軽井沢町や上田、長野市などから500人が来訪。地区の人口の3倍を超えるにぎわいに。けれどもお目当てのチョウは20匹ほど。「人が多すぎ、敬遠されたのかな」と会長の茂木重幸さん◆浅間山を正面に望む面替地区は、標高約750㍎。40世帯余りの山里だ。高齢化が進み、このままでは「限界集落」になると、2009年に会が発足。明るい話題で地域に元気を、とアサギマダラに夢を託した。今季も半月前から姿を見せ始め、100匹単位で舞う日もあるという◆研究者らが羽につける目印で千匹もの長旅をすることが分かってきた。最近で

斜面

2013.9.29

久郡御代田町

<2013年9月29日 信濃毎日新聞>

は北海道で見つかる事例も出てきている。この6月には九州の大分県から道南にまで北上したチョウが確認されている。温暖化の影響があるのだろうか◆秋は温暖な地方をめざし、南下する。信州で見られるのはいつごろまでだろう。県環境保全研究所が県民に情報を募っている。「信州・温暖化ウォッチャーズ」と名づけた試みで、アサギマダラも観察対象だ。このチョウが見られなくなる、秋はぐんと深まる。